

2026年度 愛知学泉大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
123141079	消費生活論 Consumer life theory	村上 仁美			2	選択	4前期

科目の概要

この授業では、消費活動や消費者をめぐる問題について、経済学と法律の視点から理解を深める。消費活動は日常生活と密接に関わっており、適切な知識と判断力を身につけることは、自立した生活を送るうえで重要である。本授業では、消費に関する経済学的な考え方や消費生活に関する法律を学び、消費に関する専門的な知識と実務的理解を深めることで、生活設計や将来の職業にも活かすことのできる実践的な能力の習得を目指す(DP3)。
 具体的には、合理的に判断し自己利益を追求する「経済人(ホモ・エコノミクス)」を前提とする伝統的な経済学の考え方に加え、実験や心理学の知見を取り入れた行動経済学を学び、人々の実際の意思決定の特徴を理解する。また、消費生活に関する法律を学ぶことで、日常生活で生じる消費者問題に適切に対応するための基礎的な知識を身につける。これらの学習を通して、消費者として主体的に判断し行動する力を養い、地域や社会の課題に向き合い貢献する姿勢を育成することを旨とする(DP6)。

学修内容	到達目標
① 消費者行動について、伝統的な経済学および行動経済学の理論を通して、消費の意思決定の仕組みを学修する ② 家計が直面してきた消費者問題とその社会的背景を理解し、消費者政策の展開について学修する ③ 製品の安全確保、消費者情報の保護、価格表示の規制など、消費生活に関わる法制度の仕組みと役割について学修する	① 消費者行動について、従来の経済学の枠組みと行動経済学の考え方の違いを理解し、人間の心理的要因が消費行動に与える影響を説明できる ② 消費者問題に対して政府や関連団体がどのような対策を講じてきたのかを理解し、その意義を説明できる ③ 消費生活に関わる法律の基本的な内容を理解し、トラブルを未然に防ぐための判断ができる

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素	学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例	
前に踏み出す力	主体性	日々の生活を何となく送るのではなく、なぜ自分がそのような行動をとったのかを意識し、客観的に捉える
	働きかけ力	
	実行力	新聞、テレビ、インターネットなどから消費者問題に関する情報を収集する
考え抜く力	課題発見力	日常生活において、どのような消費者問題が生じる可能性があるか考えてみる
	計画力	
	創造力	実際に生じた消費者問題の原因と解決策を考えてみる
チームで働く力	発信力	グループワークおよびグループディスカッションでは、自分の意見を言うことができる
	傾聴力	教員の講義および他の学生の発言に耳を傾け、理解することができる
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻をせず、授業に集中することができる
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：神山 久美等（編）『新しい消費者教育－これからの消費生活を考える－第3版』慶應義塾大学出版会，2026年，1,980円（税込）
 参考書：細川幸一『大学生が知っておきたい消費生活と法律 第2版』慶應義塾大学出版会，2023年，2,200円（税込）

他科目との関連、資格との関連

この授業は、『ビジネス・地域活性の科目群』に属しています。
 また、経済学、社会学、法学など社会科学に分類されるさまざまな知識を活用します。具体的には、「心理学」「社会学」「日本国憲法」「生活学概論」「生活経済論」「地域の暮らしと生産」と関連します。

学修上の助言	受講生とのルール
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に新聞、テレビ、インターネットなどを閲覧し、社会や経済の動向を注視してください。この授業は、みなさんの身近なトピックを扱うため、世の中に目を向けることが授業のおもしろさにつながると 생각합니다。 予習は、その週の授業内容に関心を持つ、復習は、その週の授業内容をより深く理解するという意図で出しています。 	授業内容につながりがあるため、実習、病気などで授業を欠席する場合は、他の受講生に連絡し、配布物を貰っておき、次の授業までに目を通しておいてください。また、授業時間内にGoogle Classroomを使用するので、スマートフォン、タブレットなどを持参してください。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	60	①	✓	講義で学習した内容を理解しているのかを確認します。また計算問題では、適切な解法を使っているか、計算の過程も評価します（部分点あり）。 筆記試験での出題割合 知識の獲得（各章のキーワードの意味を問う問題）50% 知識の活用（小テストの類似問題）30% 知識の解決（グループディスカッションのテーマに関して、その具体的な改善策を提案する問題）20%
				②	✓	
				③	✓	
	平常評価	小テスト	10	①	✓	到達目標①に関する復習プリントに取り組み、基礎力を身に付けることを目的とします。 （お友だちとの相談&レジュメ等の参照OK） *内容の出来・不出来は問いませんので（提出で10点加点）、学期末試験までに解けるようにしておいてください。 小テストでの出題割合 知識の獲得（重要用語を問う問題）50% 知識の活用（図から読み解く問題）30% 知識の解決（計算問題）20%
				②		
				③		
平常評価	レポート	20	①		第8回目のグループワークおよび第15回目のグループディスカッションに参加し、その結果をレポートとしてまとめる。（200字程度の予定） *内容の質に関しては重要視しません。 知識の獲得（講義内容の理解）35% 知識の活用（グループワークでの活用）35% 知識の解決（グループワークの結果のまとめ）30%	
			②	✓		
			③	✓		
平常評価	成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	0	①			
			②			
			③			
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①		（主体性&実行力） 各授業のトピックを新聞・書籍・ネットなどを使って調べる←授業の最後に配布するシートでチェック （課題発見力） 各授業のトピックを自分なりの視点で見ることができる。←授業の最後に配布するシートでチェック （発信力） ディスカッションに積極的に参加していない。←減点 （傾聴力） 話を聞く姿勢ができていない。←減点 （規律性） 講義に支障をきたす行動などは減点する。←減点	
			②			
			③			
総合評価割合			100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
<p>授業に積極的に参加し、授業内容の修得に熱心である。筆記試験において、授業で学習した内容および小テスト（復習プリント）に関連する基礎&応用問題を解くことができている。また、ディスカッションでは、事前にテーマに関する情報を収集し、ディスカッション中には、傾聴・発言がともに出来ている。さらに、他の学生の意見もふまえ、多角的な視野に立ったレポートを作成することができている。</p>	<p>授業に積極的に参加している。筆記試験において、授業で学習した内容および小テスト（復習プリント）に関連する基礎問題を解くことができている。また、ディスカッションでは、傾聴・発言がともに出来ており、適切な表現で、自分の意見をレポートにまとめることができている。</p>

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1	ガイダンス *授業の進め方と評価方法を理解する。また、シラバスを用いて、この授業の学修内容や学修目的などを理解する。 序章 自由貿易について考えてみよう *簡単な経済モデルを使って、自給自足と貿易のどちらが効率的か考えてみる	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	シラバスをよく読み、この授業の目的、内容、学修の到達目標を理解している。また、受講上の注意点を理解している。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する (毎回、出席確認時に、アンケート形式で確認します) ②テキストの目次を確認し、授業への関心を深める <復習> シラバスで受講上の注意点を確認する	180	主体性 傾聴力 規律性
2	第1章 消費者行動の理論 *伝統的経済学における消費者行動の理論を学ぶ。効用の概念(数式的効用と序数的効用)を確認し、無差別曲線の意味とその特徴を理解する。さらに、予算制約線との関係から消費者均衡を導出し、所得の変化が消費選択にどのような影響を与えるのかを分析する。所得消費曲線を通じて正常財と劣等財の違いを整理し、消費決定の理論的枠組みを理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	効用の概念および無差別曲線の性質を説明でき、図を用いて消費者均衡の決定過程と所得消費曲線の導出を示すことができる。また、正常財と劣等財の違いを具体例を用いて説明できる	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②無差別曲線および正常財・劣等財の概念について、生活経済学で学修した内容を思い出し、事前に復習しておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、無差別曲線と予算制約線を自ら図示し、消費者均衡がどのように決定されるかを説明できるようにする。また、所得の増加が消費選択にどのような影響を与えるかを図で示し、正常財と劣等財の違いを整理しておく	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
3	第2章 市場の機能とその限界 *市場メカニズムがどのように資源配分を行うのかを確認し、完全競争市場が成立するための条件を学ぶ。そのうえで、独占、外部性、公共財、情報の非対称性などにより市場が効率的に機能しない場合があることを理解し、これらが消費者問題とどのように関連しているかを検討する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	市場均衡の仕組みおよび完全競争市場の条件を説明できる。また、独占や外部性、情報の非対称性が市場の失敗を引き起こす理由を具体例とともに説明できる。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②新聞、テレビ、インターネットなどで、「市場がうまく機能していない」と考えられる事象を探し、その問題点をあげておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、完全競争市場の成立条件を整理し、それぞれの条件が崩れた場合にどのような問題が生じるかを説明できるようにする。また、外部性や情報の非対称性の具体例を挙げ、市場の失敗との関係を確認しておく。	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
4	第3章 合理性の限界と消費者行動 *伝統的経済学が前提とする合理的経済人モデルの限界について学ぶ。限定合理性の概念やヒューリスティクスの働き、フレーミング効果などを取り上げ、実際の消費者が必ずしも合理的に行動しない理由を検討する。これにより、消費者問題の背景にある心理的要因を理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	合理的経済人モデルの前提を説明でき、その限界を具体例とともに示すことができる。また、代表性ヒューリスティックや利用可能性ヒューリスティックが消費行動に与える影響を説明できる。	<予習> ①新聞・テレビなどで、その週の経済トピックを調べる ②自分の普段の行動を振り返ってみて、どのような行動が合理的でないか考えて、書き留めておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、合理的経済人モデルの仮定を整理し、その仮定が現実の消費行動とどのように異なるかを説明できるようにする。また、日常生活におけるヒューリスティックの具体例を挙げて確認しておく。	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
5	第4章 行動経済学の基礎理論 *行動経済学の基礎理論を学ぶ。プロスペクト理論を中心に、損失回避や参照点依存性などの概念を理解し、消費者が利得よりも損失を強く意識する傾向について検討する。また、時間割引や現在バイアスなど、時間に関わる意思決定の特徴についても学ぶ	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	プロスペクト理論の基本的な考え方を説明でき、損失回避や現在バイアスの内容を具体例とともに説明できる	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②「主観」と「客観」について調べ、その違いを書き留めておく <復習> 配布したレジュメを読み返し、損失回避と現在バイアスの具体例を自ら挙げ、それらがどのように消費行動に影響を与えるかを説明できるようにする。	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
6	第5章 ナッジ理論と消費者政策 *第4章で学んだ行動経済学の理論を踏まえ、ナッジ理論の基本的な考え方を学び、選択アーキテクチャの設計が消費者の意思決定にどのような影響を与えるのかを理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題 & 問題のフィードバック	ナッジの特徴とその目的を説明でき、具体例を挙げて消費者政策への応用を説明できる。	<予習> <復習> 配布したレジュメを読み返し、身近な場面におけるナッジの例を挙げ、それがどのように行動変容を促しているかを説明できるようにする。また、ナッジの利点と課題について整理しておく。	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
7	小テスト(復習プリント) *第2週から第6週までの授業内容に関するまとめプリント	講義(小テスト+答え合わせ・解説) *お友だちと相談&レジュメ等の参照OK	復習プリントの内容を理解し、応用問題にチャレンジできる (定期試験で、応用問題を出題する予定)	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②これまでのレジュメを揃えておく <復習> 授業中に分からなかった問題の解答を十分に理解する	180	主体性 実行力 傾聴力 規律性
8	グループワーク(行動経済学とナッジ理論) *行動経済学とナッジ理論を用い、消費生活上の社会的課題を取り上げ、行動変容を促す具体的な取り組みを検討する。あわせて、ナッジを活用した消費者政策の可能性について理解を深める。	グループワーク&レポート作成<レポートの作成方法の参考> 【津田塾大学 ライティングセンター】レポートの書き方 https://twc.tsuda.ac.jp/news/202007/20200708000000455.html *本レポートにタイトルページや目次、参考文献をつける必要はありません。文章構成の参考に使用してください。	他の学生の意見を聴くとともに、自分の考えを伝えることができる	<予習> ①消費者の脆弱性やネット社会の課題に関するニュース記事を1つ調べておく ②第4章、第5章のレジュメを見直し、プロスペクト理論およびナッジ理論について理解しておく <復習> 取り上げた課題の問題点を整理し、行動経済学的な視点からナッジを用いた解決策をまとめるとともに、その効果と限界について考察する。(レポート)	180	主体性 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9	第6章 法律と消費者教育 *法の形式、法の分類、法秩序の諸原則といった法律に関する基礎知識を学ぶ。また、消費者教育の目的やその体系について理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	法の形式、法の分類、法秩序の諸原則を説明でき、法律間の優先順位を示すことができる。また、消費者教育の目的とその取組みについて具体的に挙げることができる。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②テキストの第1章・第2章を読み、消費者教育の目的と歴史的背景を理解しておく <復習> テキスト第2章2節の消費者教育の歴史について、その出来事を年表にしておく(簡単でもいいです)	180	実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
10	第7章 消費者の安全に関する制度 *商品の安全性の関連法令として、消費者基本法や消費者安全法など、食品の安全性の関連法令として食品安全基本法や食品表示法などを取り上げ、その法律の目的と経緯を学ぶ。また、PSCマーク制度など安全を守るための制度としてどのようなものがあるのかも学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	消費者安全法や食品安全基本法など消費者の安全・安心にかかわる法律と関連する制度の目的を説明することができる	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②新聞・書籍・ネットなどを用い、商品と食の安全性が脅かされた事例を調べる <復習> テキスト第6章および配布したレジュメを読み返し、その法律や制度がどのような経緯でつくられたのかを復習しておく	180	実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
11	第8章 契約と法律 *契約の成立要件や無効・取消・解除の違いを整理し、消費者契約法および特定商取引法の基本的な保護制度について理解する。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	悪質商法に直面した場合に、契約の取消やクーリング・オフの可否を判断し、消費者保護制度や相談窓口を適切に利用できる。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②新聞・書籍・ネットなどを用い、悪質商法の事例を調べる <復習> テキストの第7章および配布したレジュメを読み返し、悪質商法に直面した場合に取るべき対応を整理し、契約の取消やクーリング・オフ制度など、消費者を保護する仕組みを説明できるよう復習する。	180	実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
12	第9章 販売信用と消費者金融 *クレジットカードや販売信用の仕組みを理解し、消費者金融に関する規制と消費者保護制度について学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	クレジットカード利用に伴う主なリスクを理解し、支払停止の抗弁権やカード会社の異議申立てなど、利用可能な消費者保護制度を説明できる。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②新聞やネットなどで、借金トラブルについて調べる <復習> テキストの第9章および配布したレジュメを読み返し、クレジットカードやリボ払いの仕組みとリスクを理解し、トラブルが生じた場合に利用できる消費者保護制度について説明できるよう復習する。	180	実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
13	第10章 ネット社会と消費者トラブル *インターネット取引やSNS利用に伴う消費者トラブルの特徴を整理し、安全に利用するための知識を学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	ネット取引における主なリスクを整理し、契約条件の確認や相談窓口の活用などの具体的な予防策を説明できる。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②ネットなどで、ネット取引の危険性に関する記事(過去の事件など)を探す <復習> テキストの第10章および配布したレジュメを読み返し、通信販売、個人間取引、フィッシング等のネットトラブルの特徴を整理し、安全に利用するための対策を確認する。	180	実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
14	第11章 消費者の責任と企業の責任 *消費者の8つの権利と5つの責任、および企業の社会的責任(CSR)の内容を理解し、消費者と企業が果たすべき役割について学ぶ。	講義およびGoogle Formsによる確認問題&問題のフィードバック	消費者の権利と責任の内容を説明でき、企業の社会的責任との関係を踏まえて、望ましい消費行動について述べるることができる。	<予習> ①前回授業以降の気になるNEWSを調べるとともに、消費者庁リコール情報サイトからリコール情報を1件確認する ②新聞・ネットなどで、過去の消費者運動について調べる <復習> テキストの第3章・第4章および配布したレジュメを読み返し、消費者の8つの権利と5つの責任の内容を確認し、企業の責務やCSRの意義とあわせて、自らの消費行動を振り返る。	180	実行力 課題発見力 創造力 傾聴力 規律性
15	学期末試験に向けて(筆記試験を行うにあたって、問題数や配点、問題の傾向についてお話しします) & グループディスカッション(サブスク・定期購入トラブルと消費者行動) *サブスク契約や定期購入に関するアンケート結果をもとに消費行動の傾向を分析し、トラブル防止に向けた対策や消費者教育のあり方について議論する。	グループディスカッション&レポート作成 <レポートの作成方法の参考> 【津田塾大学 ライティングセンター】レポートの書き方 https://twc.tsuda.ac.jp/news/202007/20200708000000455.html *本レポートにタイトルページや目次、参考文献をつける必要はありません。文章構成の参考に使用してください。	サブスク・定期購入に関する消費者トラブルの特徴を理解し、その原因と防止策を自分の言葉で説明できる。	<予習> サブスク契約や定期購入に関するニュース・事例を調べ、どのような消費者トラブルが起きているかを把握しておく <復習> ディスカッションで扱ったトラブルの原因と防止策を整理し、今後の消費行動において注意すべき点をまとめる。(レポート課題)	180	主体性 課題発見力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 情況把握力 規律性 ストレスコントロール力